



毎月十五日発行 所大社 社会
宗像 像 像
〒811-55 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-1311(代) 1311(代)
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結飾・場用品
株式会社
福岡店 福岡市博多区東公園二一三(一)号(812)
電話 福岡(五)六五一一九四五六番
本店 京都市下京区油小路六条北大(宇)600
電話 京都(五)三四一三三三(代)一四一三番
電話 三四一三三三(代)一四一三番

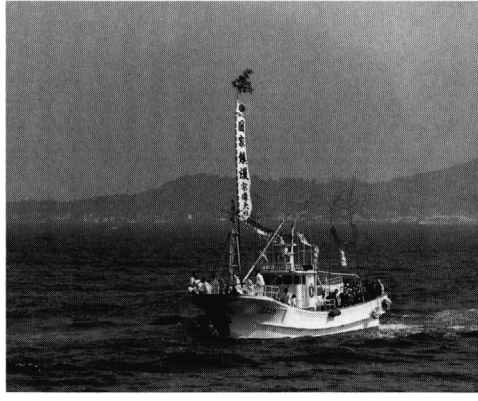
沖津宮御神璽は現在中津宮
本殿に奉安されており、秋
季大祭いよいよ近づくと待ち
にいられている。
尚、二百箇年の祭典及び神賑
行事については別表の「秋
季大祭日程」の通りです。
皆様お誘い合わせの上、御
参拝下さい。

秋季大祭近まる

当社最大の祭りである秋季大祭が、稲穂が黄金色に輝き緑濃き野山が色を染めてくる爽秋の十月一日より三日間に亘り盛大に肅行される。

この秋季大祭は古く「田島放生会」と呼ばれ、宗像郡民挙げての祭として、国家の安泰、五穀の豊穡を感謝する盛大なる祭典であり、今から約七百年程昔の鎌倉初期(貞永元年)に大宮司宗像氏経が始めたことと伝えられている。

それ以来、神郡宗像の総氏神様として、また全国宗像神六千余社の総本宮として崇敬される当社社の最も伝統ある祭として今日に至る迄連綿として受け継がれている。



大祭は十月一日、郡内六浦に芦屋、波津、新宮、相島を含めた近在の漁業関係者の奉仕により約四百隻の漁船が参加する海上神幸「みあれ祭」で幕を開ける。往時の宗像水車ながらにパレードがあり、海上総巻を繰り広げる。

期間中には、昭和大皇御即位の折、福岡県が主基田にトとされ、その時に舞われ

た主基地方風俗舞を始め、今年の収穫を占う流鏑馬神事、鐘崎の沈鐘伝説と共に当社社の社宝として伝わる翁舞、地元中学生によって舞われる浦安舞、地元流鏑馬など種々の祭典、神賑行事も行われる。また、境内では二百軒余の露店が軒を並べ秋の夜長に多くの家族連れが訪れる。

この大祭は郡民を挙げての祭典であり、宗像大社氏子会評議員、総代、郡内各漁協を始め宗像警察署、地元消防団、福岡県多流関係者等々各方面の方々の奉仕と

去る八月二十五日の残暑の中、宗像大社海洋神事奉賛会「みあれ祭」打合せ会が、当社社館前に於いて開催された。

海洋神事奉賛会 「みあれ祭」打合せ会開催

この会議は、当社秋季大祭の海上神幸「みあれ祭」の基礎をなす重要な会議であり、郡内六浦の各漁協(大島・鐘崎・地ノ島・神湊・津屋崎・福岡)と近隣の波津・芦屋・新宮・相島の三漁協を加えた打合せ会

秋季大祭日程

九月三十日(火)	午後九時	御座船の御座船
	午後六時	御座船の御座船
十月一日(水)	午前八時三十分	御座船の御座船
	午前九時	御座船の御座船
	午前九時三十分	御座船の御座船
	午前十時二十分	御座船の御座船
	午前十一時	御座船の御座船
	午後二時	御座船の御座船
十月三日(金)	午前十一時	御座船の御座船
	午後二時	御座船の御座船



第四三五回 宗像大社歌会詠草

津屋崎 佐々木和彦
飛ぶやうに吾より逃げてゆく
く下り輪沈み夕星の出づ
評) 下二句の畳み込むう
うなリズムは一日の過ぎむ
く早さを見事に言い得て
おり、それに己の生命のう
つろいを重ねた構成は巧み
作品に漂う寂寥感は大分
の共感を導くであろう。

池田 小田 イセ
わが耳となりてくれたる補
聴覚を頼りし来し今日の
歌会
(評)「わが耳となりてく
れたる」には、補聴器に全
幅の信頼を寄せ短歌を心の
糧としている作者の生き生
糧とした姿が描かれていて
爽やかですらある。

光岡 河村 久光
冷房に天気予報を見てをり
ぬ海にも山にも吾は行かね
評) 今年の夏は冷夏とも
猛暑ともつかない不安定な
夏であった。それでも夏は
夏である。冷房のきいた部
屋にこもりながら、もう少
し若かっつら海にも山にも
出掛けてゆくのに、な、と
する作者の嘆息が聞こえそ
うな一首である。

田野 森 甲子
生り年の密柑は枝の挽む程
青き実つけて夏の陽に照る
すばらしき額アジサイの鉢
届り長生きよのカード挿
されて
自由丘 細川 綱子
樟の木の秀のしづけさを眺
めをり雲一つなき風のあ
と
宇美 岩男 亘
被爆者水を求めて果てし
川谷産のひしめてゆく
吉留 高山 信子
炎天下バス待ち居れば誰知
らず覆ってくるも傘さし
かけて

名屋 小田 留子
うすみどりの蕾がすかに揺
れながら連開きおり小さき
音たて
名屋 小田 喜一
堤防に草刈り進む作業夫が
咲けるカンナを一葉残す
朝野 藤井 浩子
「空襲があるかも知れぬ避
難せよ」と八月のある日の
母九十二歳
日里 石松 弘次
月度のお誂語では「マカ
」を電車で替えて気楽となり
ぬ
福岡 中村 勇
今すぐにも棟上げの餅まか
んとす見上げる空に赤蜻蛉
とぶ
田野 森 つるの
連発の花火ははげけて空襲ふ
光の渦にどよめき起る

大野 展男 選
毎月末日 〆切

福岡 池浦千鶴子
養妹の炊きたる干鰯(皿)は
母によく似し味とそ思ふ
鐘崎 安永 久子
噴き出づる汗心地よしボラ
ンテアと仕入れし野菜今
朝も束ね
土穴 瀧口 敦子
鷲の二羽河面に佇ちて警笛
の音にも動く気配をみせず
八幡西 有吉 陽子
夏祭りのみ輿担ぎし一団は
競い水かけ駆けつけてきたり
日里 大和美由紀
十五車を刈るは楽しや新し
き鎌を使ひてさくさく刈り
ぬ
ひかりヶ丘 藤原みさを
西瓜割れば匂ひわかるや敷
薬を馬が掻きたる音のなつ
かし
城南ヶ丘 中間日出子
さらさらと流れる川で遊ぶ
孫かん声あげている木れ日
の下
徳重 石松ヤス子
車にて福岡へ帰る孫の無事
祈りつつ待つ帰着の電話
庄内 原田 衛
亡き妻がこよなく愛してハ
イビスカス一枝折りて佛に
供
自由丘 調 貞子
友は逝き荒れし庭の草の
葉に夕月照りて虫の音淋し
大島 越智 治子
雨のあと裏庭に出る赤き蟹
追ひかけとすすんで果立
ちぬ
福岡 井上かつみ
ぬくもりのわずかに残りし
通帳の動きたれば父徳ば
るる

現代の宇宙論では、今から百五十億年前先大爆発があつて宇宙が生成され、今高膨張し続けているという。宇宙の膨張が消滅するのかわりに収縮するのの現時点では定かでない。宇宙は、ガス状の物質と塵状のものごとが一体となって凝縮し、やがて核融合で白色に輝く星となり、燃焼が縮小して表面が冷えある期間の後、星は大爆発して元の塵状に還るといふ循環を繰り返す。何時か太陽は燃えつき、地球もまた消滅する。只それに至る期間が天文学的数字なので、我々は永遠だと感じているに過ぎない。地球が形成されたのは四十五億年前で、人類の文明はわずか六千年。宇宙の壮大な営みからすれば、人の一生は一瞬に過ぎない。中秋の名月に供物を捧げ、遠い祖先に今現在の我身宇宙の一瞬を感謝したい。

平成八年度「林業白書」によると、現在世界の森林は熱帯林を中心に減少、劣化の傾向にあり、開発途上国では一九八一年から一九〇年までの十年間に、わが国の国土面積の約四・三倍にあたる一億六千万ヘクタールが減少したといふ。わが国の森林面積は国土面積の三分の二を占める、二千五百万ヘクタールで、人工林を中心に毎年約七千万平方メートルずつ木材の蓄積が増加している。しかし一方で、平成八年度末の国有林事業の累積赤字額は三兆八千億円で達し、経費削減を切り切り安定した林政の運営を開くことは容易ではない。

これら累積赤字の穴埋めのために林野庁は「こぞと思はれる原生林や、成長するに数百年はかかる木曽檜などを後採し続けるべき」との結果、天然林はかつての三分の一に減少し、日本三大美林の一つに数へられた木曽檜林などが消失し、国土面積の約四分の一を占める国有林野の荒廃が顕著化してある。ちなみに木曽地方の河川では従来の土砂流出量が奥地の森林伐採後には百五十倍以上に及び土砂に埋もれた防災ダムなどの濫築、事業費用には数百億円を要するといふ。

宗像護国神社

戦没者慰霊祭並びに「千灯明」斎行

宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並びに「千灯明」が、終戦記念日の八月十五日、午後七時より宗像郡・市遺族会々員、地元住民、育成会児童約二〇〇名の参列の下、厳粛盛大に斎行された。

当日は、残暑厳しい中、地元田島地区育成会の丸九会長以下役員父母の御奉仕により約二〇〇対の提灯と境内に提灯と灯明が灯され光輝く境内に火が灯る中、当大社山田祿宜を齋主として外神職一名奉仕のもとと祭典が斎行され、護国の英霊に対して敬虔な祈りを捧げた。

七三柱の英霊を御慰めする光の祭典準備が整えられた。定期午後七時、夕暗迫る境内に提灯と灯明が灯され光輝く境内に火が灯る中、当大社山田祿宜を齋主として外神職一名奉仕のもとと祭典が斎行され、護国の英霊に対して敬虔な祈りを捧げた。

七三柱の英霊を御慰めする光の祭典準備が整えられた。定期午後七時、夕暗迫る境内に提灯と灯明が灯され光輝く境内に火が灯る中、当大社山田祿宜を齋主として外神職一名奉仕のもとと祭典が斎行され、護国の英霊に対して敬虔な祈りを捧げた。

七三柱の英霊を御慰めする光の祭典準備が整えられた。定期午後七時、夕暗迫る境内に提灯と灯明が灯され光輝く境内に火が灯る中、当大社山田祿宜を齋主として外神職一名奉仕のもとと祭典が斎行され、護国の英霊に対して敬虔な祈りを捧げた。

七三柱の英霊を御慰めする光の祭典準備が整えられた。定期午後七時、夕暗迫る境内に提灯と灯明が灯され光輝く境内に火が灯る中、当大社山田祿宜を齋主として外神職一名奉仕のもとと祭典が斎行され、護国の英霊に対して敬虔な祈りを捧げた。



宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並びに「千灯明」が、終戦記念日の八月十五日、午後七時より宗像郡・市遺族会々員、地元住民、育成会児童約二〇〇名の参列の下、厳粛盛大に斎行された。

宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並びに「千灯明」が、終戦記念日の八月十五日、午後七時より宗像郡・市遺族会々員、地元住民、育成会児童約二〇〇名の参列の下、厳粛盛大に斎行された。

宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並びに「千灯明」が、終戦記念日の八月十五日、午後七時より宗像郡・市遺族会々員、地元住民、育成会児童約二〇〇名の参列の下、厳粛盛大に斎行された。

宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並びに「千灯明」が、終戦記念日の八月十五日、午後七時より宗像郡・市遺族会々員、地元住民、育成会児童約二〇〇名の参列の下、厳粛盛大に斎行された。

宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並びに「千灯明」が、終戦記念日の八月十五日、午後七時より宗像郡・市遺族会々員、地元住民、育成会児童約二〇〇名の参列の下、厳粛盛大に斎行された。

五十二本の高い円柱が林立するミラノの大聖堂をはじめゴシック様式の古いヨーロッパの教会は、森敵なる森をイメージして建立されたといはれる。地下には至聖や守護聖人の埋葬墓もあり、一種の「山田境界」を連想させる。

この夏、日本中を震撼させた神戸市須磨区の小学生殺害事件について、「地獄の季節」と題して雑誌「新潮45」に連載中の作家・高野聖の「山田境界」を連想させる。

山文彦氏の視点に深い共感を覚えた。事件の舞台となった北須磨ニュータウンは日本最大の勤労者団地として昭和四十二年に建設され、当初から自治会長・石田某氏は、十八世紀のイギリスの社会主義者、ロバート・オーエンの「空想的社会主義」を理想とし、住民自治による「警察のない街」づくりを目指してきた労働運動の闘士であった。事件の現場となったタンク山一帯は、かつては龍華山と呼ばれた丘陵地帯で、転法輪寺といふ寺

の領地であったが、ニュータウンは古い村々としての原風景を次々と呑み込みながら肥大化していった。

山の境界には、山の神八体が祀られていた。開発のために別の神社に祀られ、現在奥須磨公園と呼ばれている公園地もかつては多井畑厄除八幡宮の境内に含められた古くからの森であった。公園化されたから森は本来の意味を失ひ、新しい住民たちの健康と娯楽のみの場所に変貌した。かつて人々の信仰の対象であった山は消え、辛うじて残ったのが「タンク山」と呼ばれている。現在フアンテナ基地として使われている。

犯人の手記によれば彼は「場所が自ら空想で創造した。パモイドオキ神といふ神に祈り、アングリ」と称する聖なる儀式（殺人）をおこなったことになる。

高山氏はレポートの中で、労働者が生活するための機械的に整備されたこの街には「基地」が無く、死者の住場所の無い所に住む実感が無いことを指摘している。かつて私共が地域と言ふ時、その中には人々と共に鎮守の森や先祖の墓も含まれており、生

者と共に死者もまた地域の生活に関わってきた。戦後の宅地開発は生活者のみの利便と合理性が優先して死者の尊厳や自然については深く顧慮されることがなかった。

それは戦後教育が宗教や神話を排除して歴史の尊厳を無視してきたことと同根であり、その結果人々は存在として自分自身を見失ひ、生きる力を見失ってきたのではないかと、そして国家もまた戦後民主主義といふ「ニュー」国家となり、護国神社といふ殉国の死者の慰霊施設を排除しようとしてくる。

八月二十五日の各紙は、世界的な博物学者・南方熊楠が晩年に住んだ和歌山山田町の屋敷で三十三点以上に及ぶ植物標本が発見された調査の結果環境が絶滅危懼種、或は貴重種に指定してあるものが多数含まれていることを報じた。熊楠が貴重な植物や動物の保存のために明治三十九年の神社社令に反対した逸話は有名であるが、我々が生きている森からだけではなく、死滅した森からも教訓を学びとるところにまで来てしまったやうである。

（神社新報）

地域と森と信仰と

秋季大祭打合せ会

「四者会談」開催



初秋の風が稲穂の上を吹き流れ赤トンボが泳ぐ頃になると秋祭りが近くなる。九月十一日当社では、十月一日より始まる秋季大祭の打合せ会が開催された。

別称「四者会談」と呼ばれるこの秋季大祭、正月前にも開かれる重要会議の由来を聞いて、昭和三十年代、当大社の祭りの準備として、宗像警察署、宗像保健所、西鉄バス赤間営業所の三者代表と当社で合会者会談」と呼んだ事に始まる。

現在では、この四者の他宗像土木事務所、宗像地区消防本部、支海町消防団、支海町夜地区、地元区長、アックス支海、支海町消防団第五駐在員、支海町消防団第五

初秋の風が稲穂の上を吹き流れ赤トンボが泳ぐ頃になると秋祭りが近くなる。九月十一日当社では、十月一日より始まる秋季大祭の打合せ会が開催された。

別称「四者会談」と呼ばれるこの秋季大祭、正月前にも開かれる重要会議の由来を聞いて、昭和三十年代、当大社の祭りの準備として、宗像警察署、宗像保健所、西鉄バス赤間営業所の三者代表と当社で合会者会談」と呼んだ事に始まる。

現在では、この四者の他宗像土木事務所、宗像地区消防本部、支海町消防団、支海町夜地区、地元区長、アックス支海、支海町消防団第五駐在員、支海町消防団第五

初秋の風が稲穂の上を吹き流れ赤トンボが泳ぐ頃になると秋祭りが近くなる。九月十一日当社では、十月一日より始まる秋季大祭の打合せ会が開催された。

別称「四者会談」と呼ばれるこの秋季大祭、正月前にも開かれる重要会議の由来を聞いて、昭和三十年代、当大社の祭りの準備として、宗像警察署、宗像保健所、西鉄バス赤間営業所の三者代表と当社で合会者会談」と呼んだ事に始まる。

現在では、この四者の他宗像土木事務所、宗像地区消防本部、支海町消防団、支海町夜地区、地元区長、アックス支海、支海町消防団第五駐在員、支海町消防団第五

中国調査紀行(25)

楽 忞 子

「少数民族による草原文化の踏査探訪もいよいよ終りに近づいてきた。午後、共同研究を続けている新疆師範大学、新疆ウイグル自治区文物考古研究所を表彰訪問した。

中国科学院地理研究所迎賓館には、テールにウイグル地方の民族料理が山盛りされた、豪華な宴会が我々への大歓迎会であった。

まずは紹興酒で乾杯（パナイ）。

この科学院は「北部遊牧民族と草原地域の民族の考古学調査」をテーマとした民族性を主力に調査がつけられている。

新疆と九州との共通の物が出土する遺跡が話題に上り、情報交換も続く中で、午前中に見学した博物館所蔵の「庫車（クチャ）発見のワイングラス」と「沖ノ島出土のワイングラス」が話し種々。

これらのグラスは共に「浮き出し切欠文」であり、同一技法によって作られたササン朝ペルシア製のカットグラスという共通点を持つ。一方は脚には高脚が付くが、「碗」は共に同形の脚型によって製作された同系異型のグラスである。

一世紀頃のラクダの隊商が荷積したこれらのグラスは、ペルシヤを後にし、中国へ中国へと長蛇の列で進んできた。水が湧き出るオアシスの交易所では、それぞれ現地の物と交換されるが、旅は続く。

同系のグラスの出土地点が打路を解いてくれる鍵で、やはりガラスが通った。路が今回の探査の締括りに相応しい話題となって、懇談会にも華を添えてくれた。

遥か二千年の昔から中国では「緑綉（シタン）の路」と呼ばれたこの道を通して、中近東・中央アジア・中国大陸・朝鮮半島・日本へと続いた、東西の文化が通る道である。道筋の行く先々の所々で、沖ノ島の神宝と同型のワイングラスが姿を現わしている。

やはりシルクロードは東西文化交流、民衆生活の公路である。

クチャ地方は新疆ウイグル自治区の南部に位置し、いま新疆最豊の灌漑地区として開発されている。

ここはタクラマカン砂漠の北の端で、天山山脈を源とするタリム河が流れるタリム盆地の中で、古代から綿織の路の通りであり、古代の遺跡も集中して文化財を多くみている。青銅器、陶磁器、ガラス製器等も多くひびく。時には完形品も表面採集できると言われる。尽きることなく話が続くが、夕刻も近まり、歓迎会に感謝の礼を述べ別れを告げて迎賓館を後にした。

一環環を相手にクチャ地方に逗留していかうかなと思つた。

入るは湯気、少なく日陰に入ると風も涼しく感じる。夕方、夕陽が輝く。マダマダ明るい一、九時半華僑賓館に帰る。日本ではいま二十二時頃である。

本日が中国打路の最後の夜である。遅い夕食も少なく、ひとりで静かに最後の夜を味わっている。

初秋の風が稲穂の上を吹き流れ赤トンボが泳ぐ頃になると秋祭りが近くなる。九月十一日当社では、十月一日より始まる秋季大祭の打合せ会が開催された。

別称「四者会談」と呼ばれるこの秋季大祭、正月前にも開かれる重要会議の由来を聞いて、昭和三十年代、当大社の祭りの準備として、宗像警察署、宗像保健所、西鉄バス赤間営業所の三者代表と当社で合会者会談」と呼んだ事に始まる。

現在では、この四者の他宗像土木事務所、宗像地区消防本部、支海町消防団、支海町夜地区、地元区長、アックス支海、支海町消防団第五駐在員、支海町消防団第五

第二十七回

西日本菊花大会開催要項

西日本一の菊の祭典 十月三十日より開催

西日本を代表する菊花の祭典であり、菊づくり九州一を決定する大会として、全国的に評価を博している西日本菊花大会は、本年も十月三十日より十一月二十三日まで当大社境内に於て開催される。

本年度で二十七回目を迎える本大会では、福岡県内はもとより、長崎、佐賀、熊本、宮崎、大分、鹿児島、山口各県より代表的な菊花製作者が丹精込めて作成した菊花が一菊に会し技を競うもので、菊づくり九州一を決定する大会として、西日本を代表する菊の祭典として各地の注目を集めている。

本大会を主催する宗像大社菊花会では、二月、三月、七月、九月と大会開催までに、総会、理事会、運営管理委員会、二役会など会合や打ち合せを重ね、去る九月十四日(日曜日)には、当大社齋館に於て菊花会役員五十名出席のもと理事を開催、本大会の大綱、開催要項、出品花の最終調整等が行われ次のように決定した。

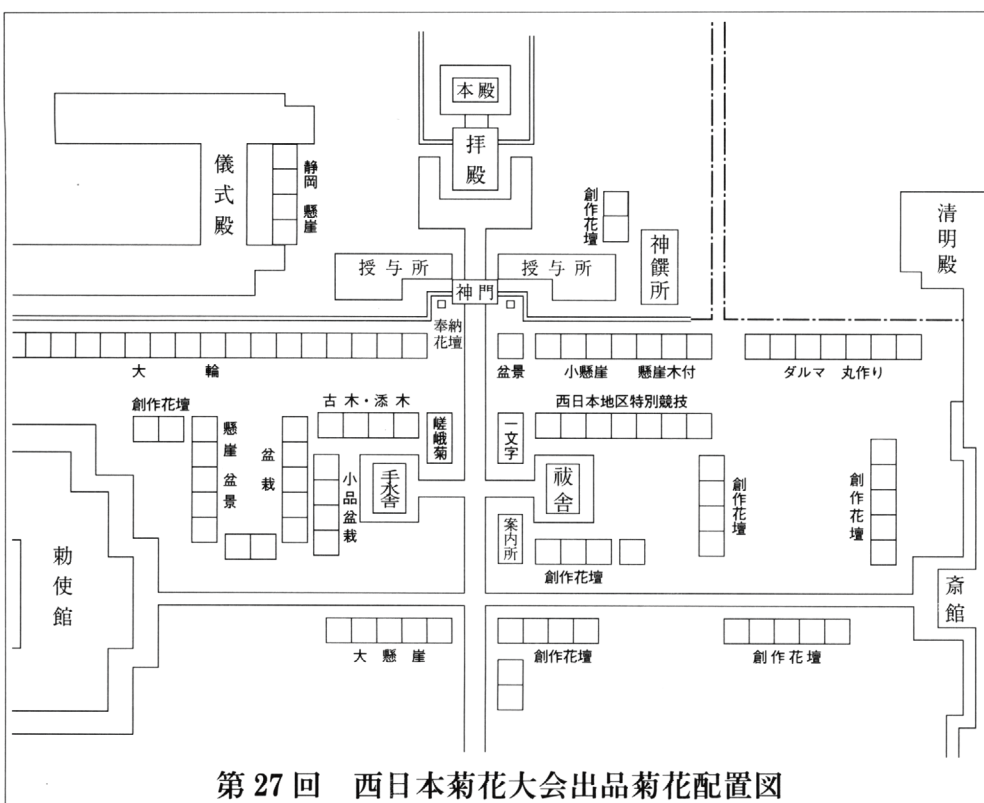
- 名称 第二十七回西日本菊花大会
- 期間 十月三十日、十一月十三日
- 審査 十月三十日、十一月十三日
- 表彰式 十月十六日
- 設営 十月十九、二十日
- 宗像地区商工会青年部会員並菊花会員奉仕

搬入 十月二十六日
 県内外二十余社の協賛会社並宗像青年会議所会員奉仕
 搬出 十一月十四日
 開催場所 宗像大社境内

参加区域 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・山口
 主催者 宗像大社菊花会
 会長 高田 太助
 後援 福岡県・丁良九州

福岡県観光連盟・福岡県農業協同組合中央会・福岡県教育委員会・全日本菊花連盟・宗像大社・近郷市町村

外三十余団体
 審査委員 福岡県農業総合試験場園芸研究所 所長 清水 博之
 審査員 同研究所花卉花木室長 谷川 孝弘
 同研究所主任技師 松井 洋
 同研究所主任技師 國武 利浩
 福岡県花卉専門部員 樋口茂四郎
 福岡県花卉園芸組合連合会
 顧問 吉田 徹生



第 27 回 西日本菊花大会出品菊花配置図

- 大社奉納盆数会 顧問 田中 一男
 審査規定 ①予選審査 予選は各地各会を本会理事がまわり、予選審査を行い、優秀なるものを本大会に出展させる。
 ②審査基準
 大輪(盆数)三〇〇盆
 花彩色彩(五)〇〇盆
 調和(二)〇〇盆
 盆数(盆数)五〇〇盆
 花彩色彩(五)〇〇盆
 調和(三)〇〇盆
 懸崖(盆数)三〇〇盆
 花彩色彩(五)〇〇盆
 調和(二)〇〇盆
 ③審査方法 審査員六名による採点で上位を選び審査員の合議による比較審査で最優秀賞・優秀賞を決定する。
- 名称 第二回切花、福助盆数一鉢投充州・山口大会
 期間 十一月八日、十一月十二日
 場所 宗像大社境内西四本菊花大会会場
 審査 本菊花大会会場
 審査員 (社)全菊連宗像大社 支部長 高島雪茂
 (社)全菊連公認指導員、審査員二〇名
 出品種目及出品点数
 大輪三本立十二鉢花壇
 四十点、四八〇鉢
 懸崖二品以上三鉢組
 十一點、四三三鉢
 盆数五品種五形懸崖五鉢組
 二十五点、二二五鉢
 西日本特別競技(九州大会) 四十九点、四九〇鉢
 切花・福助一鉢競技 一〇五点、一〇五鉢
 特別作品(十種目) 七十八点、一九〇鉢
 総計 十五種目 三四四鉢

宗像アラカルト

「宗像朝市めぐり」



秋は季節の中で一番野菜・果物がうまい、ゆえに「食欲の秋」とも言う。ダイエツト中の人々には毎日が戦いの日々となる。日本人は古来より「旬の物」を愛し、四季を通して鮮魚、野菜、果物を大切に食して来た世界で「旬を食う」習慣を大切にしている国民と思ふ。秋風に吹かれて走ると最近多く目につくのが「朝市」の幟である。〇〇朝市、ジャンボ△△市、名物産物市等々古物市のほりまで賑わっている。当大社前、アクシス支店広場でも毎月第一、四日曜日に朝市が開かれ賑わっている。又鐘崎鮮魚市、神湊鮮魚市なども開かれていて、近隣の市町村でも開催のほりが道側に立ち四季の風を運んでいる。従来の朝市は有名地の大市場が中心で、観光バスが



神湊朝市風景

- 人情味が含まれておもしろい。この宗像でも、イチゴ、玉子、ミカン等、地方独特の味覚がある。鮮魚に至っては素人ばなれした客足も多く、鐘崎のノウサバは天下第一品である、と聞くと、思わず求め食す。思わす求め食す。今と今で感じなかつた味がして、ほんとうに天下一だと思ふ。ここに朝市で品を求め楽しくおいしく食する朝市繁盛記の源があるのかも知れない。今秋もおいしく食しましょう。食へ過ぎには十分に気をつけましょう。馬肥ゆる秋です。
- お客さんを運んでいた、今でもこの様な大市場は同じであろう。しかし現在道路周辺に見る小規模の地方名産朝市には、その地方独特の味がある。
- 八月一日 月次祭 宗像海運代表取締役 市原社長奉仕
 八月二日 第十六回宗像少年の翼一行奉仕
 八月四日 太宰府天満宮小島屋権宮司他神務実習生十一名奉仕
 八月六日 出光興産(株)福岡支店総務課三名
 八月八日 鐘崎権田伊勢次郎氏心字池へ鯉奉納
 八月十五日 月次祭 宗像護国神社戦没者慰霊祭並びに千灯明祭
 八月十七日 中津市鈴木社長郭馬馬園調査の件にて来社
 八月十八日 宗像高等学校 教頭鈴木一先生新任挨拶の為来社
 八月二十一日 宗像菊友会 講習会
 八月二十一日 福岡市博物館 館又野学委員
 八月二十五日 秋季大祭海洋神事打合せ会
 出光エシジニアリング (株)兵庫事業所
 出光兵庫建設保全協会 奉仕
 八月二十七日 宗像警察署 湖上警備課長来社
 朝日新聞宗像支局山本昭二氏来社
 八月二十六日「ふね」の会 三千名奉仕
 八月三十日 別府市伊美由岐裕氏他四名奉仕
 古式登御座打合せ会

社務日誌抄



宗像大社歌会 俳句作品集(四三)

福間 森 清
口開いて鴉見つめる今朝の秋

日里 花田いつ枝
この匂ひこそが故郷慕ふる

自由ヶ丘 細川 絹子
空蟬や木樨つかみてゆれてゐる

福岡中央 山下しづえ
秋くれば月は輝き美容散る

若松 高橋 忠貴
旅の宿忘れられない人に逢う

藤沢 井上 玄洋
雲千切れ動くとも無く今朝の秋

東郷 吉武 湧泉
風死して置き所なき五尺の身

東郷 中野 きみ
お供へは畑一番の大西瓜

東郷 吉田 杵子
帰省子に物言ふ声の皆やまし

東郷 吉田 杵子
梅雨ふかし一人の時をもて余し

東郷 三浦美千代
ギヤマンの特色グラス夏の夜

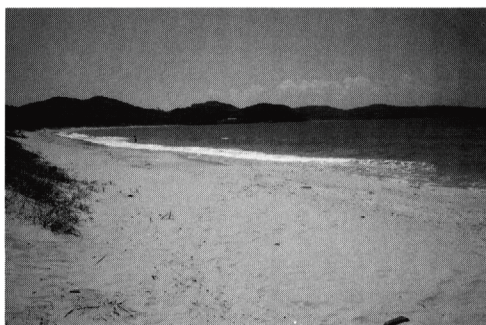
東郷 有吉亜紀子
學者らにメニユーの異なる夏の院

東郷 田中 雨葉
舟の棹使いこなされ水澄めり

東郷 木原 房子
祭笛つづく浜辺や清き

(続) 浜の寄物

120



九月十一日 早朝 県道
側でパトカーのサイレンが
鳴りやまない。かなりの台
数が走っているようで、何
か事件が起きたとは思って
いた。暫くするとヘリコプ
ターが北側津屋崎方向に飛
んでいく。

九時ごろ、家内がテレビ
で津屋崎に密航船が陸し
た。町内はパトカーが走り
回っている。パトカーと
ヘリは
所で見られ、緊張した雰囲気
が伝わってくる。男十九
人、女四人の二十三人が捕
えられたことを知った。

「どうも中国人らしい」と
いうことだった。

その日の夕刊との新聞も
大きく密航を報道していた。
密航船を発見したのは、早
朝、車を運転していた近く
の女性で、渡・丸山の中に隠
れていた。不審に思い警察
へ通報したことになる。

通報を受けた警察は対応
が早く大捜査網を敷いたの
である。近く東郷公園を
歩いていた数人を見え、更
に入ぬべし。いとあやしき地
也。

山中に潜んでいた者等計
二十三名が逮捕された。陸
だけでなく、海からは海上
保安庁が巡視船など十数隻
を、空からはヘリコプター
を、さらし海陸三百人を動
員し大捜索を行い、翌十二
日まで三十三名を逮捕され
たのである。

「中国・福建省から四十
人ぐらいて、ハンコックが書
かれた白い木造船が来た」
と供述しているという。

上陸した恋の浦付近は、
人家は少ない。ただ京泊に
は小さな波止があり、恐ら
くその付近から夜間に上陸
し、磯づたいに、恋の浦山
中に潜んで、夜明けと共に
動き出したのであろう。こ
こを選んだのは津屋崎周辺
の地理をよく知った者が手
引きをした可能性がある。

手引者は先の方に発見さ
れる前に、車や人に見られ
ていち早く、逃亡したのだ
はなからうか。残されたも
のは不安になり動きはじめ
て、先述の女性に見つかつ
たのではなからうか。

平成七年(一九九五)五
月十六日に津屋崎に密航
した者

者が上陸するので、今回
は二度目になる。七年の時
には漁港に着岸した堂々の
密航だった。韓国からパキ
スタン人ら三十二名を乗せ
てきた。

玄界岬岸には海の方を眺
んで、密航監視船が、今も
松林や海ぞいの小高い丘に
ある。戦後起こった朝鮮
多動を逃げて日本への密航
は多くなった。休戦、韓国経
済の発展と共に激減し、そ
の後監視船も、地元青年団
が寝泊まりしていたが、そ
れもなく、今では夜間に
電灯をつけているだけだ。

私も海岸歩きで一度だけ
昭和四十八年密航船(浜口
浜)に密航船が漂着してい
るのを見た。この時には五名
が捕まっている。それ以後
平成七年まで聞かなかった。

新聞によれば、九州・山
口で集団密航事件は、今年
になって二十一件あつて、
逮捕者は四百四十人におよ
び、今回の人数等あわせれ
ば、九月で昨年の人数を越
えることになる。なお昨年
一年間で十八件、四百五十
名だった。密航摘発が氷山

の一角とすれば、どれだけ
多くの密航者が目的を達し
たか、数千とか万の単位と
もいわれる。

密航は密航請負組織「蛇
頭」によって行われ、海上
輸送を中心に、日本国内で
の引渡し、移動は暴力団が
引きつぐという。「また成
功率を上げるため手口も巧
妙など、密航者たちは海南
島など、福建省から遠く離
れた場所まで移動し、何地
点かに分かれて、船で出航
し、中国沿岸で密航船に集
結する。さらに日本沿岸で
怪しまれないように日本漁
船に乗り移る」朝日新聞。

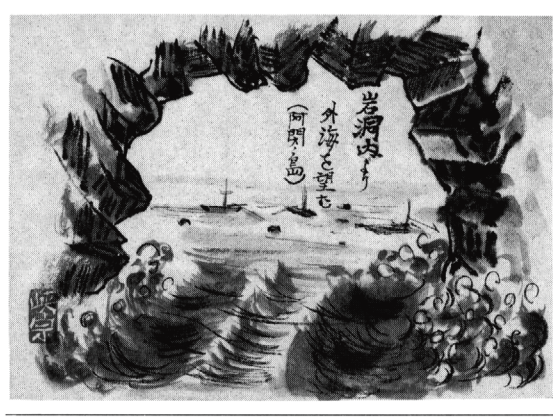
密航を防ぐためには、今
回の発見者の女性のように
「不審者の通報」は大きい
といえよう。そのためには
ビラや立札の配布設置を行
いPRにつとめなければな
らない。

十三日付の夕刊には、密
航者の女性が留置所で絶死
しているのが見つかつた。
哀れで悲しい。

此鳥の名、書紀の息長足
姫尊の御巻に、五貫と記さ
れたるを、いつよりか、藍
鳥といへり。又無題詩集に
は、阿恵嶋と書り。豊玉
此地に火々出見尊、豊玉
姫命の御社あり。

毎日(三月)には(海内)
もしづけしとて、あ(喘)
へ(き)こ(漣)く、嶋の東の
海中に、高五六丈もあらん
と見えて、蟻(細)した(細)
螺(み)などの形したる岩あり。
その中に、大なる洞
ありて、東より西にとほり
たり。洞の中へは、小舟も

行てはやみん
わたの宮こそ
ありかよひ
来作かく見む
あへ(阿恵)のしま
嶋のすむ石に
よる浪の如
鴉のさましたる大なる黒き
鳥の、潮さるに浮居て魚を
く(わ)たすよみの、神の
宮こそ鱗なす、すは
有(と)へしたみなす
御門もあらん、その宮は
爰にましけり、其みかど
愛にましけりかしこけど



岩洞
外海と望む
(阿恵嶋)

かしの後の時代の遷遷に
伴ない分離し、分化されて
きたと考えられる。これに
は、他国からの新しい文化
が流入してきたことと、そ
の教養や思想が混入される
と同時に、大きな影響を受
けたことである。

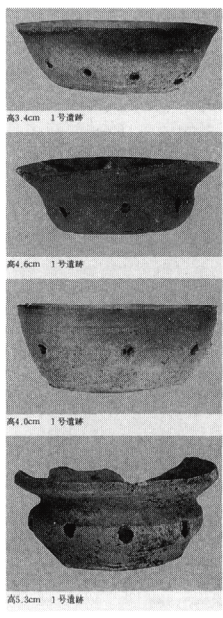
祭祀も定制度化された奈良
時代や平安時代の祭りにな
ると、祭祀奉獻品が大きく
様変わりしてくる。この現象
がよく表れているのが、沖
鳥露祭奉獻品である。人形・
馬形・舟形の奉獻品である。
いわゆる「形代類」の供え
である。他の諸々の奉獻品
も、それまでの実用品の供
献から、雛形品の供献へと

また一方、祭事による奉獻
品の区別と供え物の多量化
である。この様な時代風潮
のなかにおいて、古代原始
神祖期の祭祀を行っていた
のが沖ノ鳥であり、沖ノ鳥
の露祭奉獻品である。

古代祭祀の終焉を迎える
露天の祭場には、他所では
見ることが出来ない胴部に
小孔を数多く有した、有孔
土器が多く供えられている。
穴を持つ土器は「風(は
そ)」が有名である。風
は土屋時代の土器器や須恵
器にみられる。胴部に小孔
を一つつけた長頸壺である。
その用途としては、穴に細
い管状の物を差し込み、水

この型は神と人との離別
であり、神と人と人社会の
隔離である。沖ノ鳥露天祭
祀からの出古品により、神
人社会の分別を確実に見る
ことが出来る。

確定された祭祀形態での
祭りが行われていた沖ノ鳥祭
祀は、律令国家大和朝廷の
体制下の下で有事の時にの
み執り行われた特殊神事であ
るとも言える。鳥が持つ重
要な役割は、やはり対外交
渉に際する海の祭りである。
鳥の祭祀奉獻品には、沖ノ
鳥の特質が色濃く出てきて
いると言っても言いすぎ
ではない。



古物、神具

(33)

露天祭祀に供えられた品々
(有孔土器)

罎・碗・鉢・杯等の小
形品の須恵器に多く、各々
胴部に二重に「六〜十個」
の小孔を穿っている。この
型の土器は他に類例をみない
特殊な器である。

原始神祖期の自然崇拜に
よって生まれ、水い年月培
われてきたのが、我が国
の伝統文化である。生活の
中に自然に生き延びてきた
神と人との「同族・同
体」意識が、日本特有の文
化として生成している。し
かし、

変化してきている。これら
は、生活様式の変化によつ
て生じた、生活風習の
派生の一つの現れである。
祭儀用の土器類も祭祀専
用品として、短期間に多量
に作り出され、粗雑な
作り製の製品へと変更され
てきている。これなどは完
全に祭祀に於いて神に奉げ
る物として、人が使用する物
を分離していった形の表れ
である。

この事は祭祀形態の変化
というだけなく、新しい
時代での神に対する観念の
一大変革でもあるといえる。

や酒などの液状の物を注ぐ
時に使用した器を言われ
ている。

しかし一つの土器に十孔
内外の小孔があるように、
多数の穴を明けている土器
は沖ノ鳥以外では全く、そ
の出土を見ることがない。
古くは「一祭祀一祭場」
であり、「一祭祀一祭場」
であり、祭りの度に全てを新
しくし、日常の生活から離れ
「二度神に奉げた物は人の
物でなく、神の物であり人
は一度と手を触れない。」
この原則の姿を沖ノ鳥の祭
祀が表現している。